

「トムラウシ遭難事故を考える」シンポジウムの開催について

2009年7月16日大雪山系で10人もの登山者が低体温症で亡くなった。特に、トムラウシに向かった18人のツアー登山パーティからは8人もの人々が犠牲となり、一般社会に大きな影響を与えた。当シンポジウムでは、事故の背景と原因を探ると共に、今後、二度と同じようなツアー登山事故を起こさないための事故対策など、様々な観点から議論していく予定である。

1. 開催方法 パネリストによる講演と参加者との討論会
 2. 開催日時 2010年2月27日(土)
13:00~17:30 (12:30開場)
 3. 会場 神戸市・王子動物園ホール
(神戸市の王子公園内、神戸登山研修所の西側) 阪急電鉄・王子駅下車徒歩5分
 4. 主催 日本山岳サーチアンドレスキュー研究機構
 5. 共催 社団法人日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳レスキュー協議会
 6. 参加費 500円
 7. 問合せ先 青山 aoyama@res.kutc.kansai-u.ac.jp
古賀 h-koga@viola.ocn.ne.jp
 8. 日程
 - 13:00 開会 総合司会 古賀英年
黙祷
挨拶 内藤順造(社団法人日本山岳協会副会長・専務理事)
 - 13:10---13:25 I. 戸田氏による「トムラウシからの生還」 (15分)
 - 13:25---15:30 II. トムラウシ遭難事故の原因と背景について
座長 村越真 {8人×15分(発表12分、質疑3分)} = 2時間
 - ①(報道側から見た)トムラウシ山岳遭難事故の外観と推移
岩城史枝(岳人編集部)
 - ②山岳遭難事故におけるトムラウシ問題の位置づけ
青山千彰(IMSAR J)
 - ③トムラウシ遭難時の山岳気象について
城所邦夫(元気象庁山岳部)
 - ④トムラウシにおける低体温症について
船木上総(苫小牧東病院副院長)
 - ⑤マスコミの問いに対する、登山専門旅行会社の見解
黒川 恵氏(アルパインツアーサービス株式会社代表取締役)
 - ⑥ガイドの意思決定のあり方について
磯野剛太(社団法人日本山岳ガイド協会理事長)
 - ⑦トムラウシ遭難事故の法的問題
溝手康史(弁護士)
 - ⑧山岳団体から見たトムラウシ問題
西内博(社団法人日本山岳協会協遭難対策委員長)
 - 15:30---15:40 休憩
- 後半の部； 8人のパネリストと、会場の参加者との共同討議 —————
座長 青山千彰
- 15:40---16:40 事故の原因と問題点に関する総合討議
 - 16:40---17:30 ツアー登山における遭難事故防止のあり方について
 - 17:30 閉会挨拶 井芹昌二(日本勤労者山岳連盟副理事長・遭対委員長)